

ほっとらいん



VOL.46

ほほえみ

川崎 洋

- ビールには枝豆えだまめ
- カレーライスには福神漬ふくじんづけ
- 夕焼けには赤とんぼ
- 花には嵐
- サンマには青い蜜柑みかんの酸す
- アダムにはいちじくの葉
- 青空には白鳥
- ライオンに縞馬しまうま
- 富士山には月見草つきみくし
- 堀には落書らくがき
- やくざには唐獅子牡丹からしほたん
- 花見にはけんか
- 雪にはカラス
- 五寸釘には驚人形ごすんくぎ わじんぎょう
- ほほえみにはほほえみ

世界の中心で平和を叫ぶ

「冗談をいわれては困る。チェスで取った駒をつかわんのこそ捕虜の虚説である。そこへ行くに日本の将棋は捕虜を虐待も虚説もしない。つねに全部の駒が生きておる。これは能力を尊重し、それぞれに働き場所を与えよ」という思想である。しかも、敵から味方に移ってきたも、金は金、飛車なら飛車と元の官位のままで仕事をさせ、これこそ本当の民主主義ではないか。

「このままで日本は崩壊する」といった悲観論が強くなってきた。中でも特に最近アメリカに押し付けられた日本弱体化のための憲法を軸とした戦後民主主義によって日本人が骨抜きにされた」という調子が強い。

「お前らは日本をどうするつもりなんだ。生かすのか殺すのかはつきりしてくれ。生かすなら、日本将棋にならうって人材を登用するがいい」

「日本人は肉食主義で、元米がおとなしいんだ。それをあんどれらは、やれ肉を食え、牛乳を

「愛国心を声高に叫ぶ人に限って、アメリカべったりという感じの輩が多いのだが、もかく、六〇歳といえは還暦で元に戻る。原点へ還る。」

「歴史に学べ」といわれるが、しっかりと見なければ見えない歴史は決して学ばなければ教えてくれない。

将棋の名人、升田幸三は昭和二十一年GHQ連合軍総司令部本部でGHQの高官がわれわれのたしなむチェスと違って、日本の将棋は、取った相手の駒を自分の兵隊として使用する。これは捕虜の虐待であり人道に反するものではないかと言ったのに対して返答した。

「軍国主義から民主主義へ、食へ物もない、貧しい時代から「豊かな時代」、その中で与えられたもの、失われたものを歴史の節目において検証し、補強修正する言ひが必要だと思ふ。」

そして何よりも、平和への希求。アメリカ人のほとんどは原爆のことをよく知らない、落としたことも反省していない。

「飲めど日本人の血圧を高くさせ短気にさせよう」と心がけよ。いざんことをせんとてくれ」

この時代に、GHQに物言う日本人は珍しかっただろう。今年戦後が還暦を迎え、アメリカから原子爆弾を投下され、日本が無条件降伏した敗戦から六〇年。アジア諸国では日本の植民地支配が解放されて、解放六十周年

「戦争に負けて地獄になると覚悟していたら天国だった。言論表現は自由になる、わ婦人参政権は実現する、わ進駐軍によって解放されたと感じたという思いをした人は多かったようだ。」

その後、日本はめざましい復興をとげ、「徳経中流」といわれるまで高度な経済成長を遂げ発展してきた。

しかし、バブルが崩壊し、改めて今日の日本の現状を見わたせば、将棋の国を担う青少年問題一つ取り上げても、児童虐待や不登校、ひきこもり、フリーターの増加に加え、働く意欲も学ぶ意欲もない、ニートの増加、同級生殺害や幼児殺害落としたこと、異形な事件が相次ぎ、少年の凶悪事件による検挙入獄はこの十年間で倍増している。



世界で唯一の原爆の実験場になった日本が世界の中心で、核平和を叫ばねばならない。

県政概況を報告します

第三四三回(六月)定例会は六月十五日から七月五日までの会期で開催されました。予算を伴う議案はなく、指定管理者制度の導入に伴う条例改正案といったものが議案の中心となりました。

新幹線「原案」といった課題も一段落したこともあり、比較的平穏な議会でしたが、教員の不祥事が続発したことやエネルギー拠点化計画などが焦点となりました。

「ふく」二〇三〇年の姿は本年三月県の若手中堅職員が取りまとめた提言で、将来のあるべき姿を自適しながらどのような施策が有効であるかを示す一つの道しるべとして十分参考活用していくこと。また、知事が選挙公約したマニフェスト、福井元知事言のこの二年間の実行状況については、県民アンケート調査や行政評価等の専門家から成る中間評価委員会における評価結果をふまえて、明らかになった課題等を今後の県政十分案かしていきたいとの意向が示されました。

県政全般について以下に報告します。

総務部

【行政改革】

より積極的に行政改革を進めるために本年度からおおむね五年間の具体的な取り組みを県民にわかりやすく示した集中改革プランを年度内に策定する。

【ふくい新幹線債】

本県で初めて発行した住民参加型の県債であるふくい新幹線債は、三億円の発行額に対して、四三〇一件の個人法人から総額三九億三〇五万円、率にして二三倍を超える応募があり、抽せんの結果、三三〇名の方を当選者として決定した。

指定管理者制度とは

二〇〇三年、地方自治法が改正され、公の施設の管理運営を民間企業やNPOなど幅広い団体に委託できるよう、指定管理者制度が導入された。

公共サービスの民間開放という観点から、民間にできること、民間に委ねるといった政府方針に基づく、財政赤字の解消と小さな政府の実現、民間にシナジー創出が車の両輪となる。

これまで公共の団体であるとか、出資法人等に限定されていた公の施設の管理運営について、その規制を緩和し、民間の能力やノウハウを導入することにより、効果的、効率的な運営が図れることも、県民へのサービス向上が期待されるものである。

現在県が管理委託している三十二の施設に平成十八年度月から導入する。

貢献活動体験研修を実施する。

【県立大学】

県立大学をより魅力ある大学とするため、公立大学法人化の実現、地域貢献の強化研究の推進及び教育の重視の三つを柱とする県立大学改革基本方針を策定した。

この方針に沿って、四月から設置団体である県と県立大学の教職員で組織する公立大学法人福井県立大学設立準備協議会を開催し、平成十九年四月を目途に公立大学法人化に向けた検討を進めるなど、大学改革に全力で取り組んでいく。

また、国際的視野に立ち、経営の理論と実践能力を身につけた高度専門職業人を養成する大学院のビジネススクールを平成十八年四月に開設するため、現在文部科学省への届け出準備を行っている。

さらに、大学院で学ぶ社会人学生がゆとりを持って学べるよう、三年の標準就業年限を超えて四年まで在学することが可能となる長期履修制度を平成十八年度から導入する。

【電子申請システムの導入】

電子申請システムについては、平成十九年度からの運用開始を目指して、県と県内全市町村で構成する福井県電子自治体推進協議会を設立した。電子申請システムは、県民の利便性を向上

させるものであり、電子自治体実現のきざしとなるものである。

このため自治体の投資負担が少ないシステムの構築に向けて、県と市町村が共同して本年度には基本設計を、来年度にはアウトソーシング方式によりシステム開発を行うこととしている。

総合政策部

【北陸新幹線の整備促進】

北陸新幹線については、福井駅部の工事実施計画(四月二十七日)に富山・金沢間の計画と同時に認可された。今後は平成二十年度末の完成を目指した福井駅部整備を着実に実施するとともに、昨年十一月の政府与党申し合わせにおける必要に応じ、随時見直しを行うという見直し条項に基づき、早期に見直しが行われ、金沢とほぼ同時期の福井開業と教養までの早期整備が実現されるよう、北陸3県を初め、関係の府県や経済界とも連携を強化し取り組む。

進めるため、若狭湾エネルギー研究センターに、拠点化推進組織を設置し、産官学ネットワークや研修制度等の確立を図る。

【福井鉄道のえちぜん鉄道への乗り入れ】

福井鉄道へのえちぜん鉄道への乗り入れについては、これまで両鉄道事業者と協議を行い、実施の前提条件となるダイヤ等について検討を進めてきた。その中で、現在、幸福の架けかえ工事等の影響により、福井鉄道の軌道部での走行に最大十分程度の遅れが発生しており、このまま計画どおり単線のえちぜん鉄道へ乗り入れると、えちぜん鉄道自体の定時走行にも影響を与え、その安全性、利便性の問題が生じてくる。このため、えちぜんJR福知山線の事故も考慮し、幸福完成後の安全確保の状況も見きわめ、乗り入れの実施を判断していかねばならない。

今年度は、福井鉄道の低床車両の導入について、県として支援するとともに、両鉄道の乗り継ぎ運賃の改善を進めるなど、利便性の向上を図っていく。

【えちぜん鉄道】

えちぜん鉄道の平成十六年度の利用者数は約四二万人となり、目標の三〇万人を上回ったところである。えちぜん鉄道では、本年度の利用者数の目標を年間二六〇万

人と定めさら利用者の安全確保サービス向上に努めていることとしていることである。県としては、引き続き、えちぜん鉄道が行う安全確保のための設備投資等に対し支援することともに、えちてつサポーターズクラブへの加入促進など、鉄道事業者、沿線市町村等と一体となって利用促進に取り組む。

【嶺南地域鉄道の整備】

教質までの直流化については、来年初の開業に向け、当初計画どおり電車線設備や変電所の新設工事等が着実に進められている。

【ふくいブランドの創造】

県内の熱意と意欲ある地域ブランドがさまざまな地域資源を活用し、地域ブランドへと高め、ビジネスとして継続的な取り組みに発展させることを目的とする地域ブランド創造活動推進事業については、昨年度採択した三國湊魅力づくりプロジェクトが大手旅行会社が行った地域ブランドینگ大賞に入選するなど具体的な成果が徐々にあらわれていることである。現在、今年度の新たなビジネスプランの採択に向け検討を進めていることである。また、約二〇〇名を超える福井ブランド大使の募集には、全国各地で情報発信をしていた

だいているが、会報やメールの随時送付情報交換を密にするためのインターネット上の掲示板設置など、細かな情報提供や活動をサポートするための取り組みを積極的に進めている。

教育委員会

【教職員の不祥事防止対策】

教育関係者で構成する不祥事防止対策会議を開催し、全小中県立学校長に対する通知や全教職員に対する緊急メッセージを送付するとともに、不祥事防止のための相談窓口を設置した。さらに、県教委及び地教委による学校訪問等々実施し、綱紀の厳正と服務規律の確保の徹底を図る。

【高校生の就職支援】

二〇〇五年三月卒業の本県の新規高卒者の就職率であるが、文科系学生によると九十七パーセント、昨年に引き続き、全国一位である。また、昨年までの就職後三年間の離職率であるが、四十二パーセント、全国的には低いというものの、依然として高い水準である。昨年度に引き続き、職業観就労意識形成を図る等の支援を実施し、離職率の低下を図る。

【ふくい漢字学習推進事業】

本県出身で文化勲章を授章された白川静先生の漢字研究の御功績を展示し、広く県民の皆様方の漢字学習の拠点として使いたいという思いで、県立図書館内に、白川文字学の室を設け、五月十五日には先生をお招きして記念講演会を開催した。

また、七月四日からは六回シリーズの漢字学習講座を始めており、引き続き児童生徒の夏休み期間中の親子漢字教室等々、県民の皆様方の漢字文化を学ぶ学習環境づくりを推進していく。

【地域子ども教室推進事業】

昨年度から子ども居場所づくりの一環として実施している地域子ども教室推進事業においては、さまざまな体験活動あるいは地域住民との交流活動を行う中で、思いやりそれから行動力、協調性、そういったものなど、児童の豊かな心を養うことを目的に実施した。今年度は実施箇所を一四八

カ所に拡大していくことを考えており、平日開催等々その充実を一層図る。

【子ども安心三万人作戦】

四月からであるが、本県でも連れり事件等々が発展するおそれのある事案等が急増している。子ども安全の確保が急務となっており、地域ぐるみで子ども安全を守る、子ども安心三万人作戦を県下全小学校区二二四で展開する。

【県民スポーツ祭の開催】

今年度から新たに開催する県民スポーツ祭は、スポレクと県民を合体といふもの。七月、八月を中心に、市町村対抗の部三九種目、交流の部五二種目を開催するとともに、新しいスポーツ体験教室それから年齢別大会を導入しており、一万二千人以上の参加を目指し、現在鋭意準備を進めている。

【恐竜博物館の開館五周年記念特別展の開催】

恐竜博物館については、開館五周年を迎えた。そこで世界初公開となるが、中国産の始祖鳥の展示を初め、話題性のある内容の特別展を七月十五日から十一月三日まで開催し、全国に向けた情報発信力を高めることにより、たくさんの方々に御来館いただくようPR活動に取り組んでいく。

【第20回国民文化祭ふくい2005 本年目開催であるが、その主催事業についてそれぞれの詳細計画に基づき、出演団体との調整あるいは運営体制の整備を進めている。今発表作品等の本番に向けた練習を開始等々準備が本格化している。

産業労働部

【中小企業金融対策】

平成十六年度の県制度融資全体の実績は、二五、四四件、三、七七億五〇〇〇万円、全額、ハースで前年度比九二〇％となっており、件数、金額とも減少傾向が続いている。

内訳は、資金の使途が特定されていない一般的な制度である中小企業育成資金は、一、八八億、四〇〇万円、前年度比七、八三％となっている。

また、売上の減少などにより経営の安定に支障が生じている企業を対象とする「経営安定資金」をはじめとするセーフティネット制度は、一、五〇億、三〇〇万円、前年度比一〇、一九％となっている。この中には、昨年の福井豪雨で被災した中小企業の再建を支援する中小企業支援緊急資金が含まれているので、これを除くと七、三億、八六〇〇万円、前年度比五〇、二％と大幅に減少しており、

企業経営は改善傾向にある。

【ふくいジョブカフェ】

昨年五月に福井商工会議所ビルに開設したふくいジョブカフェは、経済産業省のモデル事業採択を受け、フロアを拡張し、新たに産業コーディネーターやマッチングプランナーを配置するなど、就職支援体制を強化した。

さらに、県内九カ所にカウンセラーを配置した「三ジョブカフェ」を設置し、全県的に就職支援を行うほか、地元産業界、教育界企業等と連携して、地域産業を担う若者の人材育成を図る。

Uターン情報センターについては、四月にジョブカフェが設置されている福井商工会議所ビルに移設し、ジョブカフェと連携したUターン就職支援サービスのワンストップ化を図ったところであり、六月から新たに無料職業紹介を開始した。

【産業の活性化】

今年四月に、ふくい産業支援センター、福井県中小企業産業大学校、福井県アサインセンターを統合したふくい産業支援センターは、経営技術、人材育成、デザイナーなどの産業支援機能を一元化し、企業に対して迅速かつ効果的な支援を行うとともに、現場主義顧客主義成果主義に徹した企業支援を実施する。

また、民間企業で豊富な実務経験をもち企業経営に精通したプロ

ジェクトマネージャーとサブマネージャーを引き続き設置し、新規創業ややる気のある企業を支援していく。

【商工団体の育成】

商工会、商工会議所では、企業ニーズが高度化多様化する中で、小規模事業者への経営改善指導に加え、創業や経営革新への取組みといった高度で専門的な指導が必要になっている。特に、商工会においては、経営指導員が一名の小規模な商工会が半数近くあり、経営指導体制を強化していくことが大きな課題であり、昨年、県商工会連合会が策定した商工会改革プランにも示されている。

このため、今般の市町村合併の枠組みに沿って、商工会の合併や広域連携を推進するための基本方針を四月に提示し、平成十九年四月一日までに合併広域連携を実現するよう要請した。

経営指導員の追加配置等の特別措置をはじめとする職員設置基準を見直したほか、合併に向けた協議会の開催経費等への支援措置を講ずることとしており、商工会と連携を図りながら、合併広域連携を促進していきたい。

【情報サービス産業の振興】

昨年度から実施している産官連携によるメイドインふくいネット「開発支援事業」につきまして、は開発助成の対象となった一〇

グループの中から本年度は二
グループに対して全国展開で
きつな開発の支援を行うと
ともに新たな研究に取り組む
産学連携グループの結成を促進
していく。

【企業誘致】

今年四月以降ではソフトウ
エア開発を手がける株式会社ア
ステックコーポレーション保
除代理店業を営む株式会社アド
バンスクリエイト電子材料や
フラインセラムックス等に使用
されるシリコン化合物を製
造する第一稀元素化学工業株式
会社の進出のほかテクノポ
ー卜福井において古河スカイ株式
会社は二社の工場増設が決定
している。

なお企業誘致アタック五
〇〇では四月および五月の
二か月間で八十九社を訪問して
いる。

【ポートセールズ】

「開港法上の開港」が実現し
た福井港は外航船の入港隻数
が今年一月以降五月末まで三
十六隻となり、昨年の同時期よ
り四隻上回っている。

また敦賀港については敦
賀港貿易振興会を連携したポー
トセールスを展開した結果、こ
の四月から敦賀港と中国の大
連青島を結ぶ定期「リナナ航
路」に新たに上海が加わり、敦賀
港の利便性が大きく向上した。

【産力強化】

「福井県産力戦略本部におい
て本年三月に策定しました最
先端技術のメックづくり基本指
針に基づき、レーザー高度利用技
術など最先端技術の創造を目指
す五つの技術分野ごとに研究会
を設置し、県内企業の幅広い参
加を得て、次世代自動車部品な
ど有望市場分野における産業界
づくりを進めている。

これらの取組みについては、
経済産業省の新事業支援ネット
ワーク形成事業のモデル事業と
して採択されたところであり、
(財)ふくい産業支援センターが
中心となって実施していく。

【眼鏡産業の振興】

本県の眼鏡産地は一九〇五
年に増永五左衛門氏が大阪から
眼鏡職人を福井に招き、眼鏡つ
くりを始めて、今年で一〇〇周
年を迎えており、

これを契機に、次の二〇〇年
に向けた産地発展のために、県
と社団法人福井県眼鏡協会は、
十月一日のめがねの日に合わせて
一〇〇周年記念式典をはじめ
眼鏡産地一〇〇年のあゆみ
展や県立歴史博物館における
眼鏡の特別企画展の開催また

第二〇回国民文化祭「ふくい
2005」への参加などを通して、眼
鏡産地福井の全国へのPRを
図っていく。

【繊維産業の振興】

本県繊維産地のPR、新規市
場の開拓を目的として、全国Y
OSAKO衣デザインコンペ
ティションinふくいを開催
する。

【旅券パスポートの日曜交付】

本年五月十五日から、国際交
流会館と若狭窓口で開始してい
る日曜交付の件数は平日交付
の約一・五倍から二倍程度あり、
好評を得ている。

企業局

【電気事業】

中島発電所など六か所の水力
発電所と国見岳風力発電所の運
営を行っている。

平成十六年度の水力発電所の
年間供給量は降水量に恵まれ
たことにより年間目標の電力
量二億四千一〇六万キロワット
アワーに対して二億八千七二
〇万キロワットアワーとなり、
目標を約一九％上回った。
電気料金の単価は、水力発
電は北陸電力と二年毎に交渉し

ており平成十七十八年度は一
キロワットアワー当たり七円三十
三銭で契約した。

【工業用水道事業】

豊島第一工業用水道事業につ
きましては平成十六年度は、鯖江
市の東部工業団地の企業八社に
当初の申込みとあり、日量約三万
八千トンに給水した。

また、福井臨海工業用水道事業
につきましてもテクノポープ卜福
井市に立地する企業四社および福
井市の二日市場周辺の企業4
社、合計四八社に、当初の申込み
とあり、日量約二万七千トンに給
水した。

【水道用水供給事業】

坂井地区水道用水供給事業で
は平成十六年度は、坂井地区
に計画とあり日量約四万四千ト
ンの水道用水を供給した。

【臨海下水道事業】

平成十六年度は、テクノポ
ー卜福井に立地する企業八五社か
ら排出された日量約九千六百トン
の汚水処理した。

【臨海工業用地等造成事業】

テクノポープ福井につきまし
ては現在立地企業数は七四社
操業企業数は六二社、産業用地
の売却率は九〇％となってい
る。

安全環境部

【原子力行政】

美浜発電所三号機事故につ
きましては、関西電力の再発防止
対策および行動計画ならびに国
の事故調査委員会の最終報告書
が三月に取りまとめられた。

また、福井臨海工業用水道事業
の内容につきましても、高経年
化プラントに対する対応や労働
安全の確保、国としての反省や
責任事故の社会的、地域的影響
など、県がこれまで要請してき
た内容が盛り込まれた。

また、検査の充実、原子力保安
検査官の資質の向上をはじめと
する安全規制の継続的改善を
図っていくなど、原子力の安全
確保に向けた強い決意が示され
たものと考えている。

県としては、関西電力の再発
防止対策が国の厳正な監督の
下、着実に実行されること、何
よりも重要であると考えており、
説明を受けた際、再発防止対策
の実施状況やこれに対する国の
確認状況について適時必要な

報告をするよう求めたところで
あり、県としても立入調査の実
施や原子力安全専門委員会での
審議を通じて、厳正に確認して
いきたい。

美浜発電所三号機の二次系配
管の点検については、管理指
針に基づき、全ての点検対象箇
所に加えて、減肉が起りにく
い箇所について、毛氈圏を拡大し
て順次点検を行い、これまでに
すべての箇所の点検を終了し、
現在必要な配管の取換え工事
等が行われている。

また、本県の強い要請により
設けられた国の高経年化対策検
討委員会は、四月六日に、これま
での検討の論点を整理した中間
取りまとめを行い、その内容に
ついて、知事が原子力安全保安
院長から説明を受けました。

その際、知事から、八月に予定
されている最終報告には、高経
年化対策のガイドラインの整備
やデータベースの確立など、国
として高経年化対策の充実強
化に向けた具体的な方向性を明
確にし、さらに責任ある国の関
与を一層強化することなどを盛
り込む必要があると伝えた。

さらに、五月十六日に、安全協
定を三年ぶりに改定し、県が
事業者者に求める措置として、原
子炉の運転停止を明記するなど、
高経年化が進む中で安全監視体
制の強化を図った。

「もんじゅ」の改造工事につき
ましては、三月から準備工事が
行われており、但し、今後、改
造工事の実施状況や安全性、総
括の指摘に基づき、改善状況等
については十分に確認してい
きたい。

【国民保護計画】

県では四月十二日の国民保
護協議会で、答申を受け、直ちに
国との協議を開始し、現在は、
事前の協議もほぼ最終段階と
なっております。

今後、閣議決定を受け、全国
で最も早く国民保護計画を策定
したいと考えている。
また、国民保護計画を実効性
のあるものとするため、本年十

一月に関西電力美浜発電所において、全国で初めてとなる実動訓練を実施する予定であり、今後その内容について、国、美浜町電力事業者など関係機関と十分に検討していきます。

このほか、国民保護措置の具体的な運用を定める各種マニュアルの作成や市町村計画の作成支援のための研修会の開催、市町村モデル計画モデル避難マニュアルの作成など、順次進めていきたいと考えている。

【地球温暖化対策】

「夏のエコスタイルの実施」については今年から衣替えの時期に合わせ期間を拡大して、六月一日から九月三十日まで、冷房の温度を一八度に設定することにより、身近な省エネの取組みとして、地球温暖化防止につなげていく。

また、京都議定書の発効などを背景として、本県における地球温暖化防止の一層の推進を図るため、地球温暖化対策地域推進計画を、本年度中に、本県の実態に応じた具体的な施策や新たな目標の設定などを盛り込んだ計画に改定する。

【廃棄物行政】

家庭や事業所からの廃棄物の減量化リサイクルや適正処理を進めるため、福井県廃棄物処理計画を見直すこととしており、本年度中に、本県の実態を踏

まえた具体的な施策や新たな目標の設定などを盛り込んだ計画を策定していきたいと考えております。

また、敦賀市民間最終処分場対策につきましても、現在、処分場および周辺の地形測量、盤状況および木の芽川護岸の漏出状況などを把握するための詳細なボーリング調査等を実施しております。

今回の調査は、地下水位のモニタリングを除き、秋頃には現地での作業が終了する予定であります。

今後、これらの調査結果をもとに、敦賀市民間最終処分場環境保全対策協議会を検討していただき対策の絞り込みを行ってきたいと考えております。

また、国の特別措置法の適用を受けるために、学識経験者などで構成する敦賀市民間最終処分場の対応に関する調査委員会を設置し、これまでの行政の対応経過や再発防止に向けた審議を行っていく。

【消費者行政】

昨年、三六年度に改正された「消費者基本法」を踏まえ、福井県民の消費生活の安定および向上に関する条例を改正し、本年四月から施行した。

「この条例の基本理念に基づき、今後消費者の自立の支援に向け、かこいお買物」の普及啓発など、よりきめ細やかな施策を展開していく。一方消費生活センターにおける苦情相談については、架空請求等の相談件数が平成十六年度は一万五千六百二十九件前年度比一三四％と急増している。本年一月からは土曜日曜にも相談に応じているほか、近年増加している個人情報漏えい等のトラブルに巻き込まれた消費者の相談を受けるため、個人情報保護法が全面施行された本年四月に個人情報報告相談窓口を開設した。

健康福祉部

【介護保険制度の見直し】

「予防重視型システムへの転換」や「地域密着型サービス」の創設などを柱とした改正介護保険法が、今月二十一日成立した。

今回の見直し内容を踏まえた上で今年度中に、福井県老人保健福祉計画、介護保険事業支援計画を平成十八年度から二十年度までを計画期間とする計画に改定することとし、その中で健康寿命の引上げ、住み慣れた地域での自立支援、計画的な介護施設の整備などを推進するための具体的な施策や数値目標を定めていく。

【児童虐待防止】

児童虐待の相談件数が増加していることから、四月から総合福祉相談所に専任の職員を配置し、二四時間三六五日体制で児童相談に対応している。

また、去る7日に児童相談の第一義的な窓口である市町村の職員に対し、児童虐待の相談への対応等についての知識の習得を目的とした市町村職員児童虐待防止研修会を開催した。

今後とも、市町村との連携を図りながら、児童虐待の未然防止や早期発見早期対応を進めてまいります。

【こども家族館(仮称)】

嶺南地域の県立児童館、こども家族館(仮称)については、施設および展示遊具の基本設計について、それぞれ4月に委託契約を締結し、基本設計業務に着手しているところであり、今年度中に実施設計へと進めたい。

【障害児福祉】

肢体不自由や知的な障害のある児童が身近な地域で安心してその障害に関する専門的な診療やリハビリ訓練を受けることができるよう、小児療育センターと地域の医療機関が協力する仕組みを整え、今月から、奥越地域は福井社

【小児救急医療】

昨年度までに、嶺北嶺南地域それぞれにおいて夜間における小児救急の輪番病院制を整備いたしました。本年4月からは、小児科医による日夜間の電話相談事業、#8000子とも医療電話相談事業をスタートさせた。

【園芸振興】

昨年度から、高糖度ミディトマト等収益性の高い品種の産地化に着手。本年度から、日本一早いナシの産地化を進める。坂井北部丘陵地において規模拡大や新たな品種の導入など生産から販売に取り組み意欲的な農業経営体の育成を進めている。

【新規就業者の確保】

ふくい農林水産支援センターにおいて、ふくいアグリスクールを開催。年十二回の講座を実施する。

【兼業農家支援】

農業改良普及の経験者や、町名を地域農業支援員として委嘱し、各農林総合事務所へ配属し、技術指導を行う。

【トレーサビリティ】

農家等に対し記録の徹底を図り、生産者、流通、販売関係者等の相互理解を促進してきた。本年度は、豚肉と鶏卵についてシステム構築、携帯電話からのアクセスも可能とする。

【地産地消】

県庁ビルで開催されていた「とりたてふくい」の市が福井駅前商店街と協同して、場所をガレリアエド町に移して開催する。

【食育の推進】

六月十日、国会において、食育基本法が成立。学校、地域、家庭における食育の推進を担うため、ふくい食育ボランティアとして個人三四五人、企業グループ二七団体に登録いただいた。

【農林水産物のブランド化】

東アジアへの米の輸出販売やインターネットを活用した物産展の開催など多様な販売を開拓する。

【提案型共同研究事業】

本年度から試験研究機関と取り組む課題を一般募集共同研究に着手している。

【林業生産活動の活性化】

意欲的な森林所有者のグループや低コストで伐採搬出を行う森づくり隊を育成している。県産材の利用を促進する協業体を設立する。

【水産業】

ヒラメアワビ等の種苗の安定供給や漁場の造成等に取り組んでいる。若狭ふくい栽培漁業センターから県内養殖業者へ十五万尾出荷。昨年度から福井あゆ増産事業を実施しており、福井生まれ福井育ちのあゆの種苗二二五万尾が放流されている。

農林水産部

【水田農業】

担い手の中心となる認定農業者は本年三月末現在六七六経営体となり、公営農体制についても七組織に拡大している。

土木部

【公共事業の電子調達】

入札業務の迅速化とこれに伴う事務コスト削減を図るためインターネットを利用して入札手続を行う電子入札システムを平成24年度から本格運用に向けて整備を進めている。

本年日から、億円以上の工事および千万円以上の委託業務について運用を開始する。

【高規格幹線道路】

舞鶴若狭自動車道については、残る小浜西敦賀間の早期完成に向けて、小浜敦賀両側から整備が進められており、当面の目標である小浜インターチェンジまで開通に向けて努力している。

【中部縦貫自動車道】

福井・勝山・上志比の用地確保に取り組み、平成24年度の一部開通に向け、工事促進に努めていく。大野油坂道路については、ルート構造を確定するため動物の環境調査を半程度行う予定。

【スマートIC社会実験】

国は高速道路の利用促進、地域活性化を推進するため、建設管理コストの削減が可能なスマートIC（ETC専用IC）の導入を検討しており、福井県では北陸自動車道の南条サービスエリアが社会実験の候補となっており、今秋から実験を開始し、利用状況調査や積雪寒冷地における冬期運用での課題点を把握する。

【足羽川の治水対策】

国と県で共同設置した九頭竜川流域委員会が、足羽川の河川整備計画策定をめざしている。

【福井駅周辺整備事業】

四月十八日JR北陸線の高架切り替えが行われ新しい福井駅が開業した。駅より南側では高架橋と交差する五つの路線の整備を進めており、十八年内の開通をめざしている。

【JR福井駅舎の撤去工事】

旧JR福井駅舎の撤去工事は十月中旬には完了する予定。えちぜん鉄道の高架化についても本年度詳細設計、早期完成をめざす。

【福井駅西口広場の拡大】

福井駅西口広場は広場の拡大めざし、計画の素案を作成している。

【県内港湾の活性化】

手寄地区市街地再開発ビルは平成十八年度末の完成をめどに進めている。

敦賀港は近年国際コンテナ船やフェリーの取扱貨物量が堅調な増加傾向。若狭港と結ぶ200の船や上海往きの定期航路開設など環境は著しく前進している。これらを踏まえ敦賀港湾計画の改定を年内に行う。福井港は本年四月一日より関税法上の開港に指定され、外航船入港実績は前年比一割増と順調な滑り出しとなっている。

【住宅政策】

地域特性に応じた住宅政策を推進するため今年度、平成二十二年を目標年次とする福井県住宅マスタープランを策定する。

【伝統的民家の普及促進】

県下に二万戸余りある伝統的民家について改修等を支援し、ふるさと福井の創造に取り組む。



大局観と複眼的な見方

今年、戦後六〇年戦後最大の危機において日本人が還暦を迎えたということ、改めて昭和史二十年の教訓を昭和史の半藤利が引く次のようになる。

国民的熱狂をつくつてはいけな。流されてはいけな。熱狂というのは理性的なものでなく感情的な産物。マスコミにあおられ、いったん燃え上がる熱狂そのものが絶対的な権力を持ち、そのほかの部署でどんな貴重な情報を得て、こつこつと一切認めない。

日本型のタコソコ社会における小集団主義の弊害、陸軍大佐の集まった作戦謀略が絶対的な権力を持ち、そのほかの部署でどんな貴重な情報を得て、こつこつと一切認めない。

最大の危機において日本人は抽象的な観念論を非常に好み、具体的な理性的な方法論をまったく検討しない。自分にとって望ましい目標をまず設定し、実際に上手な作文で壮大な空中楼閣を描き、物事は自分の希望する通りに動くと考え。

ポツダム宣言の受諾が意思の表明ではなく、降伏文書の調印が必要という国際常識を理解していなかった。そのわずかなスキにソ連が参戦し、武器を投じて無抵抗であった満州で大惨劇となった主観的思考による独善によるもの。

何かことが起った時に、対症療法的な、すくなく成果を求める短兵急な発想で、これが昭和史の中で次から次へと展開された。

その場その場の「まかしな

だ、お前の父ちゃんハゲ頭じゃないか」といった感じで、真摯な議論検証というような面がどこか行つてしまったように思えます。小泉流の答弁スタイルによるものだと思います。

私達、地方議員は、地方の方針が、戦争中のように、何の根拠もないことを方針としていた、いや、かまな、三も含め、熱狂し、裏賣してはいないか、といったことをききると、チエックしたく、タメなものはタメ、あるべき姿はこれ、現実的対応はこれ、最善は、次善は、と具体的に、対心しなければなりません。

福井県では知事が選挙公約した、福井元氣宣言の中間評価がなされ、県の若手中堅職員が取りまとめた提言、ふくい2008年の姿をたたき、白に未来を語るう、みたいな状況となっています。

目標をもって仕事をすると、成果を重視した行政になっていくことは大歓迎ですが、しかし、それが自先、小先、点数稼ぎであったりすると、小さな目標は達成したが、いくらか小さな目標を合計しても、大きな目標に達しないことになり、大問、複眼的視点が重要なポイントだと思います。

これらを見ると、別に昭和史の戦前史というだけではなく、今日の日本人にも同じことが多く見られて、現代の教訓ともいえます。

これらを見ると、別に昭和史の戦前史というだけではなく、今日の日本人にも同じことが多く見られて、現代の教訓ともいえます。

これらを見ると、別に昭和史の戦前史というだけではなく、今日の日本人にも同じことが多く見られて、現代の教訓ともいえます。

これらを見ると、別に昭和史の戦前史というだけではなく、今日の日本人にも同じことが多く見られて、現代の教訓ともいえます。

これらを見ると、別に昭和史の戦前史というだけではなく、今日の日本人にも同じことが多く見られて、現代の教訓ともいえます。

これらを見ると、別に昭和史の戦前史というだけではなく、今日の日本人にも同じことが多く見られて、現代の教訓ともいえます。



福井港発、初海外クルーズ 9月8日～10日 いざ初出航 三国～釜山

四月一日福井港が開港してアツという間に四ヶ月。出入港数は内航船も外航船も一月より十月で数えるのです

が、「開港」と関係がある外国貿易船(外航船)は、七カ月の経過した七月末です。五、六隻を数え大きく伸びた前年をさらに一〇隻も上回っています。これを二昨年の同月末と比較すると三四隻も多く取扱いがすくく伸びていることが分かります。

更に今年四月に開港してからは直接福井港に入港した船が五六隻中二隻にもなり、福井港がより使いやすい港になった事が分かります。

開港するため最低条件であった五〇隻を目標にしていたものが一気に今は一〇〇隻をめざす港へと飛躍してきました。これからは今までの貨物に加えコンテナ貨物などの取扱にも期待され、もっともっとと発展が期待されます。

福井港が開港して船が直接入航できる国際港になった。これをいかに利用拡大し地域を発展させていくかは努力しだいです。

何についても言えることです。が財政が厳しい中で、地元には

熱意ややる気がなくては相手に何も伝えることはできません

福井港は、現在、産業労働部マーケット戦略課の中で商業政策が位置づけられ、福井港の利便促進のための営業活動など行政としても動いており、以前とは雲泥の差となっています。

また、今春より、地元三国町議会にも新たに、福井港活性化特別委員会が誕生して、活動が開始されました。地元としてのより細かな情報の収集が期待されます。

今般は、福井港開港を記念して客船をチャーターして、海外(韓国)へ出航することも企画いたしました。

福井港発の初海外クルーズとなるわけですが、開港したことによって、船客チャーターすれば、三国黒目からいつでも海外に直接船を出すことできるようになったことを宣言する大きなアピール力を持つものです。

また、こうした取り組みが従来の行政がお膳立てし、補助金を出して行うよりも、よりよいものでなく、文字通り民間の人たちの手で取り組んでいただけたことは、これまでなかったことであり、地元の熱意として非

常に大きな意味を持ちます。今後、修学旅行や団体旅行など船を利用した観光クルーズをはじめ、日中韓など海外交流を深めるための在りとなるものと期待されます。

現在海外クルーズができる客船は、日本に四隻しかなく、自分たちの都合に合わせてよければ何年も前から予約する必要があります。偶然開港年に当たる本年、九月の数日間だけ利用できる日数があったことから、具体化しました。

短期間であり、福列り、運動会時期に加え、音楽会やふっつわいたような賑やかな行事があったりと、心配しましたが、三百人を超える申し込みがあり、ほぼ満室の状況となったようです。(一、二室の余裕はあるようですが)

取り組まれた開港を祝う会の皆様やご協力いただいた皆様の「労苦」に心から感謝を申し上げます。

福井港利用促進体制が徐々に整い、利用拡大とあわせ貨物船の定期航路開設をめざすこと、そして、客船を利用した観光・ビジネス・体育文化など、対外民間交流をはかること、平行して港湾整備を進め、福井港を活性化させ、強い地域の繁栄を築いていかねばなりません

開港から4ヶ月

葉月

坂田 寛夫

新緑の気ままにアツク

こんやは 時間も待たに
 なんて来てくれなんだのか
 おれはほんまにアツク
 あんまりアツク
 関西線とびこんで死にたいわ
 そやけどあんたをアツクみはせんぞ
 あんたはやさしい
 ええひとやから
 ころしたりせえへん
 死ぬのんはわしの方や
 あんたは心がまっすぐして
 おれはたまがり
 さりながら
 わいのむねに穴あいて
 風がすかさずか抜けよんねん
 つべこつべ
 くるしいて
 まるでアツクにアツクこまれて
 電気はちゃんと消されたみたいや
 ほんまに切ない 八月さん
 お月さん やて
 あほうなことをアツくしました
 さいなら わしやもアツくあへん
 死んでおれへん
 電車がええのや
 ガツときたら
 キョキョと首がアツくアツくわ
 そやけど
 むかしから
 女に二時間待たされたかたて
 死んだ男があるやろか
 それをアツくとアツくしい



八月七日は立秋この日から
 立冬前日までが秋 暑中見舞い
 は立秋の前日までこの日以
 降は残暑見舞いとなる

八月を葉月といふのは葉落
 ち木葉の落ちる月なぞを
 語源としているようだが旧暦
 で八月といえは秋の真ん中。

明治政府は旧暦の明治五年
 十一月三日を新暦の明治六年
 一月一日と改めた。

これを境にして日本の暦は
 月の層から太陽の層に改まった。
 この明治の改暦は日本人の季
 節感を根底から揺さぶる大事件
 で最大の変化は新暦の月のめ
 くりは旧暦よりひと月早まるた
 めに江戸時代まで千年以上に
 わたてて続いてきた月ごとの季
 節感と年中行事が混乱してし
 まったことである。

旧暦時代春は一月から三月
 夏は四月から六月、秋は七月か
 ら九月、冬は十月から十二月と
 いふ具合に一年十一月が四季
 によつてきれいに四等分され
 立春は新年立夏は四月立秋は
 七月立冬は十月に来るよつに
 なっているこの十一月のめ
 くりに沿って、太陽の高さに
 よつて一年を二十四等分する二
 十四節気がある。

これと年中行事が整然と並び

こうした時間の地図の上で日本
 人の季節感が育まれた。

日本人は季節感が国民と
 いわれてきたが今は昔のこと
 にならなくなっている

明治改暦から百年以上も経過
 した今日、旧暦の年中行事をき
 ちんと太陽暦で置き換えて整理
 するようないふをすすめて
 思うが、初春に正月をあわせれ
 ば一月は師走となるようにな
 くなるから、ややこしい。

今年の夏はワールズビズ
 (夏のビジネス軽装) 背広とネ
 クタイの我慢大会のような姿に
 室内のクーラーを合わせると女
 性はひざ掛けを離さない。
 背景は、京都議定書の発効
 で温室効果ガス削減が国際公
 約となったためだ。

しかし本気で取り組むなら
 遠い国から大量のエネルギーを
 使って運ばれてくる輸入農産物
 を国産にすることを考
 えた方が、はるかに
 劇的な効果があるよ
 うに思えるのだが。

今年も美容ひば
 りの十七回といつ
 こともあつて特集も
 組まれていふ

残暑お見舞い申し上げます。



聞いても不世出の歌い手だと
 思うが林家三平が、最高の
 ウォークはジュリーと天野
 克夫がいつたので久々に沢田
 研一の君をのせてを聴いた
 という記事を読んだ。

それってどこかにあつた私
 の思いと同じだったので思わ
 ずカラオケで曲を探して歌っ
 た。

中学三年の頃だつたらうか
 ザ・タイガースが解散して、
 ビッグも解散して沢田研一が
 心機一転してソロデビューした
 思い出の歌だ。

福井港が開港して初の海外
 クルーズ客船ソノレヒュー。
 粋な歌をうたい君をのせて夜
 の海を渡る舟でこの世のあわ
 ただしさを横目に急流をむさほ
 る。

夏の風物詩ともいえる高校
 野球とアツく甲子園球場の内
 野席を通稱アルプススタ
 ンといふのはなぜか。

戦後の一時期、草野球がはや
 り後楽園球場を管理する職員
 らでつくつたチームのキャプテ
 ンだった岡本太郎は遊びに来た
 巨人軍の選手たちとも仲良し
 だった。

あるとき巨人を辞めて近鉄の
 監督に転向することになった千
 葉選手。近鉄は万年最下位で、当
 時のチーム名は、近鉄パール
 ス。いかにも弱そうなお名前だつ
 たので、強打者で鳴らした千葉
 選手は「猛牛」というあだ名を
 とつて近鉄パッファローズと
 名前を変えた。その時マークを
 デザインして欲しいと依頼され
 て描いたのが今の近鉄のマー
 クだといふ。

「母ちゃんはどこ行った？」
 「フラダンス。」
 「いつどこで、なんとなつち
 の女房はフラダンスをはじめた
 よつて村の納涼祭で婦人会が
 華麗にデビューした。」

フラダンスって何が上手な
 のかわからないけどやっぱり
 顔の表情ではないか思つた。

「あ、いいわ、青い海とさわ
 やかな風、ふりそく、光大地
 のめくみ、あ、嬉しいの、今日
 もステキな日、生きているの
 つつ、自然に感謝し、お月
 様と波のリズムで踊り、それを
 見ている人も踊っている人の
 何もいえない、恍惚の表情を見
 て、やわらかく、やさしく、つ
 れしくなつて癒される、そい
 うものではないか。」

しかし、いいわ。何より、挑
 んでいるのがいい。

「蛇足といふのは、へびの絵
 を一番早く描いた人がもつと
 うまく描こうと足をつけて、二
 番手の人に負けたんだと娘が
 学校で習つたと話していたが、
 郵政民営化法案否決による衆院
 解散で、二ニュースを聞いて、ふ
 と思ひ出した。

やめてよ、ね、といふ感じだ
 が、人生いろいろ、小泉さんと
 しては、やるしかないわね
 と、もかく、六〇回目の敗戦記
 念日平和をかみしめよう、
 と、なな様も御体大切に、
 お便りお待ちしております。

「今までの自分なんか蹴下バ
 ンてやあ。
 そのつもりで、ちやうどいいい。」